

## 《 解 答 例 1 》

筆者の言う通り、「問題」の正解は一つであり、それを誰かが知っていると思い込んだまま、子どもたちが社会に出ていくことは、望ましくないと考える。なぜなら、社会における「問題」の中には、答えが一つではないもの、簡単には見つからないものが多いからだ。また、他と協働しなくては解決できない問題や、自分たちで答えをつくり出すべき問題もある。これらに対応し、未来の変化が予測困難な時代を生き抜くためには、自分で考え、判断し、周囲と協働する力が必要である。私は、子どもたちの「生きる力」を育てる教師を目指し、次の二点について力を入れて取り組んでいきたい。

まず、探求する活動を通して、主体的に学び、自ら深く考える姿勢を養いたい。各教科の学習においても、体験を取り入れたり教材を工夫したりすることで興味・関心を高め、子どもたちの「なぜだろう」を大切にしたい授業づ

くりをする。子どもたちが疑問の答えを見つけようとする過程で、安易に答えを求めず、自らの考えを掘り下げ、別の見方をしてみようとするのが、深い学びにつながる。課題解決の過程において、試行錯誤する子供の活動を温かく見守り、一人一人の学び方やつまづきに寄り添いながら、丁寧な指導を心がける。

次に、協働的な学びを通して、学びの深まりや広がり、人と関わることのよさを実感させたい。ICTを活用すれば、意見交換や発表がさらに充実するだろう。また、授業や学校行事に協働して取り組む中で他社の存在の大切さに気づかせたい。さまざまな意見があるからこそ、多角的でおもしろい授業になったり、一人一人の個性が異なるからこそ、行事が盛り上がったたりする。全ての教育活動を通して、自分も仲間も大切な存在であることを認め、互いに尊重し合いながら協働する力を養いたい。

私は、主体的・協働的な学びを通して、世の中の問題に広く目を向け自ら課題を見出し探求する力、仲間と協力しながら考えを深めたり広げたりして一緒に答えを創造する力を育てていく。どのような困難に対しても粘り強く挑戦し、よりよい社会を築くことができる子どもたちの育成を目指し、精いっぱい努力していく所存である。

《 解答例 2 》

問題には必ず答えがあり、その正解は必ず一つであるという思い込みを学校教育で与えてしまいがちである点に筆者は警鐘を鳴らしている。それを踏まえ、私は子ども一人一人が創造的にものごとを捉え、より望ましいやり方・あり方を考えられる力を育める教員を目指したい。私たちが生きる予測困難な時代においては、これまで以上に子ども一人一人が一つの問題に対してたった一つの正解を探すのではなく、自分たちで新たな正解を創造していくことが不可欠だと考えるからである。学校現場で子どもの創造性を育むために、私は以下2点の取り組みを行う。

一つは、探究型の社会科の授業を展開する。教科書内容をただインプットするだけでなく、授業に振り返りの時間を設け、学習内容について「なぜそのようなことが証明できたのか」「それは本当だろうか」など子どもからの疑問点を書き出す活動を入れることで、当たり

コメントの追加 [M0ユ1]:

者の考えをどうとらえているか

コメントの追加 [M0ユ2]:

者の「どこかに正解があって、その正解は誰かが知っている」と思い込んで... [1]

コメントの追加 [M0ユ3]:

記のような力を育むことの必要性を、時代背景を踏まえて簡潔に記す。こ... [2]

コメントの追加 [M0ユ4]:

論の問題提起をうけ、本論につながる一文を入れる。

コメントの追加 [M0ユ5]:

本論1】取り組みの一つ目の内容が簡潔にわかるキーワード（解答例の場... [3]

前のことに疑問を抱く姿勢を養う。そのうえで、学期に一度探究の時間をとり、挙げた疑問点について、各々の仮説やそう考えた理由・根拠などを調べたり議論させることで、創造性を育むうえで必要な論理思考を育む。

次に、子ども主体で対話によってより良いやり方・あり方を見出す学級経営を実践する。日直の役割や移動教室のルール、掃除のやり方や文化祭・体育祭などの学校行事について、担任からのトップダウンではなく、子どもたちが自ら対話的に最善の解決策を見出せる学級となるよう、担任として対話の作法を教えさまざまな意見に肯定的に向き合う受容性を大切にする。子どもの自発的で建設的な対話には、安心して発言できるルールづくりが重要であると考え。そのため、相手の人格を否定しない、お互いの共通点・共感点に目を向ける、相手の考えを受け入れたうえで相手の気持ちに配慮して主張するなど対話の作法を周知させる。また、私自身も「なるほど。

コメントの追加 [M0ユ6]:  
論1を具体的に掘り下げる。ここでは、読み手がイメージできるよう授業... [4]

コメントの追加 [M0ユ7]:  
本論2]二つ目の取り組みがわかるようキーワード... [5]

コメントの追加 [M0ユ8]:  
潔に具体例をあげること  
で読み手のイメージが... [6]

コメントの追加 [M0ユ9]:  
級経営で子どもが正解思考ではなく創造的思考で... [7]

コメントの追加 [M0ユ10]:  
話の作法を教える必要性  
を簡潔に書くことで説得... [8]

コメントの追加 [M0ユ11]:  
象的だった、「対話の作法」とは何かを簡潔に具... [9]

確かに。」と受け入れたうえで「でも、この点  
についてはどうしよう？」と受容的に向き合  
い一緒に考える姿勢を心がける。

以上のように、教育活動全体を通して、子  
どもの創造的な探求と対話の活動を大切にし、  
子どもの多角的にさまざまな答えを見出せる  
力を育む。(898字)

コメントの追加 [M0ユ12]

子どものさまざまな意見に  
肯定的に向き合う受容性  
とはどのようなことかを  
簡潔に具体化する。

コメントの追加 [M0ユ13]

結論】本論で書いた取り  
組みを簡潔にまとめ（解  
答例では「創造的な探究  
と対話の活動」）、この小  
論文の論点となっていた  
「問題に対し、一つの正  
解を求めるのではなく、  
自ら多角的に考え創造的  
に答えを見出せる力」に  
帰着させる。※ここで  
も、絶対に「自己肯定感  
を育む」「コミュニケー  
ション力を育む」などの  
別の論点に帰着しないこ  
... [10]

2022/09/19 9:45:00

筆者の「どこかに正解があって、その正解は誰かが知っていると思込んでいる社会人が増えることは怖い」という主張を踏まえて、その主張から考えられうる「子どもにどのような力を育む教員を目指したいか」を受験者なりの言葉で書くことが大切。この解答例では「創造的」「より望ましいやり方・あり方を考えられる力」という言葉を使って自らの主張を展開している。

2022/09/19 9:51:00

上記のような力を育むことの必要性を、時代背景を踏まえて簡潔に記す。ここでは、「子どもに一つの正解のない時代を生き抜く創造性や思考力、協働性を育ててほしいのは、今後ますます予測困難で道無き道を歩かなければいけない子どもたちには自ら道を創造し未来を切り拓く力が必要だから」という、課題文を選んだ出題者の出題意図を汲み取ることが大切。

2022/09/19 9:59:00

【本論1】取り組みの一つ目の内容が簡潔にわかるキーワード（解答例の場合は「探究型」「授業」）を入れた表題にする。

2022/09/19 10:01:00

本論1を具体的に掘り下げる。ここでは、読み手がイメージできるよう授業展開のやり方や留意点について簡潔かつわかりやすく展開することが重要。（解答例の場合は、探究型の授業を具体的にはどう展開するのか、どのタイミングでどんな活動をさせて、それによりどんな姿勢を養い、そのあとどのように、本小論文の論点である「自ら創造的に考え答えを見出す力」を育むかにつなげなければならない。※ここで論点がズレてしまう（「こうして子どもの自己肯定感を育む」「こうして子どものコミュニケーション力を育む」など）と評価が下がる。もち

ろんコミュニケーション能力が育まれることで結果的に他者と協働しながら創造的解決に向かうわけだが、その場合は「コミュニケーション力が育まれることで他者と創造的に多角的な解決策を見出すことができる」と、「たった一つの正解に依存せず自ら考え問題に立ち向かえる」という論点に帰着させることが大切。

ページ 5: [5] コメントの追加 [MO ユ 7] Microsoft Office ユーザー  
2022/09/19 10:12:00

【本論2】二つ目の取り組みがわかるようキーワード（解答例では「対話」「学級経営」）を入れて簡潔に表現する。

ページ 5: [6] コメントの追加 [MO ユ 8] Microsoft Office ユーザー  
2022/09/19 10:13:00

簡潔に具体例をあげることで読み手のイメージがつきやすくなる。

ページ 5: [7] コメントの追加 [MO ユ 9] Microsoft Office ユーザー  
2022/09/19 10:14:00

学級経営で子どもが正解思考ではなく創造的思考で自分たちで問題に向き合い解決できるよう担任として具体的にどんなことを心がけるかを書く。「対話の作法」「肯定的に向き合う受容性」という言葉では抽象的でイメージがつきにくいため、この後の文章では、「対話の作法」「肯定的に向き合う受容性」とは具体的にはどのようなことかが簡潔にわかるように述べていくことが必要。※これは、「見守る」「寄り添う」などの抽象的な言葉を使う時も同じことが言える。

ページ 5: [8] コメントの追加 [MO ユ 10] Microsoft Office ユーザー  
2022/09/19 10:19:00

対話の作法を教える必要性を簡潔に書くことで説得力が増す。



抽象的だった、「対話の作法」とは何かを簡潔に具体化する。

【結論】本論で書いた取り組みを簡潔にまとめ（解答例では「創造的な探究と対話の活動」）、この小論文の論点となっていた「問題に対し、一つの正解を求めるのではなく、自ら多角的に考え創造的に答えを見出せる力」に帰着させる。※ここでも、絶対に「自己肯定感を育む」「コミュニケーション力を育む」などの別の論点に帰着しないこと。仮にそれらの言葉を用いたとしても、「問題に対し、一つの正解を求めるのではなく、自ら多角的に考え創造的に答えを見出せる力」を育むまでのプロセスとしての位置付けで述べること。